



ACTIVITIES

## 令和7年度SCAT研究助成の募集概要（HP掲載）

当センターでは、先端的な情報通信分野の研究の支援および次世代を担う若い研究者の支援を目的として、研究費の助成および研究奨励金の支給を行っています。さらに、国際研究交流の促進を目的として、国際会議開催費の助成を行っています。これらの令和7年度（令和8年度から助成開始）の募集内容は次のとおりです。

### ■募集内容<sup>1</sup>

#### 1. 研究費助成

- (1) 応募資格  
先端的な情報通信技術分野の研究を行っている大学、高等専門学校に所属する研究者または研究グループ
- (2) 助成額など  
1件あたり総額 250 万円以下  
(助成期間：2年または3年)
- (3) 募集期間  
令和7年8月1日(金)～10月31日(金)

#### 2. 研究奨励金（奨学金）

- (1) 応募資格  
先端的な情報通信技術分野の研究を専攻する、令和7年度大学院博士後期課程への進学予定者で、研究科長が推薦する学生(各研究科2名まで応募可能)
- (2) 支給額など  
1名あたり月額 10 万円  
(支給期間：在学中の3年間以内)
- (3) 募集期間  
令和7年8月1日(金)～11月28日(金)

#### 3. 国際会議助成

- (1) 応募資格  
令和7年度中に開催される先端的な情報通信技術分野の国際会議を主催する学会、研究グループなどの責任者
- (2) 助成額など  
1件あたり 25 万円以下
- (3) 募集期間  
令和7年8月1日(金)～10月31日(金)

### ■応募方法（今年度は7月頃掲載予定）

所定の申込書類に必要な事項を記入のうえ、当センター宛に郵送してください。応募書類は、当センターのホームページからダウンロードしてください。ダウンロードできない方は、下記の送付・問合せ先までご請求ください。

Homepage: <https://www.scat.or.jp/josei/boshu/>

### ■送付・問合せ先

〒162-0067 東京都新宿区富久町 16-5 新宿高砂ビル  
一般財団法人 テレコム先端技術研究支援センター 事業部  
TEL : 03-3351-8148 FAX : 03-3351-1624

E-mail : [scatjosei@scat.or.jp](mailto:scatjosei@scat.or.jp)

Homepage : <https://www.scat.or.jp>

募集案内(ポスター等)



\*1 概略を載せています。募集内容の詳細は、当センターのホームページを参照願います。(7月頃掲載)

# 令和7年度研究者表彰候補者 推薦募集のお知らせ（HP掲載）

当センターでは、ICT（情報通信技術）分野における先端的な技術に関する調査研究とその支援、研究開発への助成、先端技術情報の提供などの事業を通じて、ICTの発展に努めてまいりました。

今後もICT分野の研究開発に対する幅広い支援を行うため、ICTによる国民生活の安全安心に寄与する研究者表彰候補者の推薦を募集します。令和7年度の募集内容は次のとおりです。

## 1. 表彰対象研究者

ICTを用いることにより国民生活の安全安心に多大な貢献のあった研究者。ここで、安全安心に貢献した研究とは、情報通信におけるセキュリティ・AIの分野の他、医療・福祉、防犯・防災、道路・交通、都市・自然環境、食・農業、宇宙・海洋等の様々な分野における課題をICTで克服し、安全安心な社会の実現に貢献した幅広い分野（基礎研究を含む）を対象とする。なお、1案件の対象者は原則3名以内とする。

## 2. 表彰項目

会長大賞、会長賞、優秀賞（過去の表彰をご参照ください）

Homepage : <https://www.scat.or.jp/awards/>

## 3. 募集期間

令和7年5月7日(水)～7月11日(金)

## 4. 表彰式

令和8年1月開催予定のSCAT表彰式にて、会長が表彰いたします。（表彰状・賞金を贈呈）

## 5. 推薦方法

推薦書をダウンロードし、下記、推薦書提出先までメールでお送りください。なお、推薦は他薦（自社関係の研究者の推薦は可）とさせていただきます。

Homepage :

<https://www.scat.or.jp/awards/file/nomination.docx>

## 6. 個人情報保護

ご提出いただきました情報は、個人情報保護に関する基本方針に基づき、個人情報の保護に努めます。

Homepage : <https://www.scat.or.jp/scat/policy/>

## 7. 推薦書提出先・お問合せ

推薦書の提出やお問合せは、下記までお願いします。

E-mail : [awards@scat.or.jp](mailto:awards@scat.or.jp)

Homepage : <https://www.scat.or.jp/awards/recruitment/>

## 第121回テレコム技術情報セミナー

■ と き : 令和7年3月19日(水) 13時00分～16時05分

■ と ころ : SCAT 2階会議室

令和6年度SCAT表彰受賞者による記念講演として開催致しました。

### 講演1

《優秀賞》

「スマートフォンログを活用した多様な健康状態推定AIの開発とHealthTech基盤を通じた社会実装」

株式会社NTTドコモクロスステック開発部 医療・ヘルスケア技術開発担当 担当課長ヘルスケアサービス部 担当課長兼務  
山内 隆史 氏

### 講演2

《会長賞》

「重要インフラ及びSociety 5.0向け構成・状態分析技術によるサイバーセキュリティへの貢献」

日本電信電話株式会社 サービスイノベーション総合研究所 社会情報研究所 所長 中嶋 良彰 氏  
主幹研究員 佐藤 亮太 氏

### 講演3

#### 《会長賞》

「Privacy Policy/Preference Manager の研究開発」

株式会社 KDDI 総合研究所 セキュリティ部門 サイバーセキュリティグループ

コアリサーチャー 奥井 宣広 氏

### 講演4

#### 《優秀賞》

「低環境負荷な印刷法による有機 EL デバイスの研究開発」

日本放送協会 放送技術研究所 新機能デバイス研究部

業務職 大久 哲 氏

### 講演5

#### 《会長大賞》

「マルチメディアセキュリティ分野における先駆的研究と社会課題の解決」

国立情報学研究所 情報社会相関研究系

研究主幹・教授 越前 功 氏

## 表彰者紹介

### 《会長大賞》

越前 功 氏

国立情報学研究所 情報社会相関研究系 研究主幹・教授

### [業績]

マルチメディアと情報セキュリティ・プライバシー保護の融合分野における研究が重要となっている。受賞者は、この分野において 70 編以上の学術論文と 200 編以上の国際会議論文を発表するとともに、日米欧等で 60 件以上の特許を登録する等の顕著な学術成果を残した。また、研究成果を通じた社会問題の解決に取り組み、カメラの写り込みによるプライバシー侵害を防止する PrivacyVisor や指紋の盗撮を防止する BiometricJammer 等の独創的な研究開発を行い、国内外のメディア等で大きな反響を巻き起こした。さらに、AI によるフェイク顔映像の検出手法や、検出と改ざん領域の推定を同時に行う手法を世界で初めて提案する等、Deepfake detection と呼ばれるフェイク顔映像の検出という新たな分野を創生した。また、JST CREST FakeMedia や国立情報学研究所シンセティックメディア国際研究センター等の活動を通じて、フェイク顔映像の自動検出を行う SYNTHETIQ VISION の開発及び国内企業 5 社への有償ライセンスを行い、サイバーエージェントが著名人の Deepfake 検出サービスに SYNTHETIQ VISION を採用する等の研究成果の実用化を実現した。このように、受賞者の研究成果や社会実装は、我が国国民の安全・安心の実現に多大な貢献をした。

### 《会長賞》

中嶋 良彰氏

日本電信電話株式会社 サービスイノベーション総合研究所  
社会情報研究所 所長

佐藤 亮太氏

日本電信電話株式会社 サービスイノベーション総合研究所  
社会情報研究所 主幹研究員

### [業績]

サイバー攻撃は重要インフラシステム等を脅かす社会問題となっている。受賞者は、戦略的イノベーション創造プログラムで重要インフラ等を対象とするサイバーセキュリティ対策技術（真贋判定技術、動作監視・解析技術）の大規模研究開発プロジェクトを統括して国産サイバーセキュリティ技術を創出するとともに、本成果の活用により東京 2020 大会のセキュリティにも貢献した。また、本技術を発展させ OT/IoT システムに適用する研究開発プロジェクトを企画・遂行し、Society 5.0 に不可欠な OT/IoT 向け国産セキュリティ技術の創出にも貢献した。これらの成果は、保護対象の「構成(ソフトウェアやファイル等)・状態(通信データ等)」を分析する基盤技術として、スマートビル・スマートファクトリ分野等で社会実装が進んでいる。さらに、「構成・状態」分析技術は保護対象のセキュリティに関する可視化データを生成し、従来にはないセキュリティオペレーションを可能にした。可視化データ

では SBOM が各国政策で標準仕様となっているが、受賞者は SBOM による可視化データ高度化の研究開発を推進すると同時に、SBOM の可視化データによりサプライチェーンのセキュリティリスク低減に取り組む「セキュリティ・トランススペアレンシー・コンソーシアム」の設立・運営でも中核を担っている。このように、受賞者はサイバーセキュリティの分野で国民の安全・安心の実現に多大な貢献をした。

#### 《会長賞》

奥井 宣広氏

株式会社 KDDI 総合研究所 セキュリティ部門  
サイバーセキュリティグループ コアリサーチャー

披田野 清良氏

株式会社 KDDI 総合研究所 セキュリティ部門 エキスパート

清本 晋作氏

株式会社 KDDI 総合研究所 執行役員 セキュリティ部門長

#### [業績]

スマートフォンや IoT 等の機器等から収集されるデータには多くのパーソナルデータが含まれており、適切な管理や活用が社会課題となっている。受賞者は、ユーザ中心の思想に基づいてパーソナルデータの提供に関する設定情報を管理し、ユーザがパーソナルデータの提供を適切にコントロールするのを支援する機能を初めて実現した Privacy Policy/Preference Manager (PPM) を研究開発した。PPM は提供する複数のサービスのプライバシーポリシーに対するユーザの同意状況を一元的に管理可能で、ユーザの同意に基づいたパーソナルデータの利活用を適切に実現できる。また、PPM は研究開発や標準化、オープンソース化等の活動に加えて、KDDI 株式会社が提供する「au ID ポータル」のプライバシー設定機能及び関連システムとして実運用されており、ユーザの au ID に紐づく各種情報の利用に関して、個別に同意した内容の確認及び変更を可能にした。さらに、PPM は同意管理機能サービスとして事業者向けにも提供されており、複数の事業者でパーソナルデータの管理を適切に行うために活用されている。このように受賞者が研究開発した PPM は、ユーザが安全・安心にサービスを利用できるとともに、事業者においても安全・安心にパーソナルデータを利活用する環境を構築できる等、国民の安全・安心の実現に多大な貢献をした。

#### 《優秀賞》

檜山 聡氏

株式会社 NTT ドコモ クロステック開発部  
医療・ヘルスケア技術開発担当 担当部長

河田 隆弘氏

株式会社 NTT ドコモ クロステック開発部  
医療・ヘルスケア技術開発担当 担当課長

山内 隆史氏

株式会社 NTT ドコモ クロステック開発部  
医療・ヘルスケア技術開発担当 担当課長

#### [業績]

健康寿命の延伸、医療費・介護費低減等の観点から、国民一人一人が自身の健康状態を把握し、主体的に健康行動に取り組むことが重要となっている。受賞者は、「日常生活を通して誰もが健康を維持・増進できる安全・安心な社会」の実現をめざし、世代を問わず広く国民に普及したスマートフォンから自動的かつ非侵襲的に取得できるログを活用することで、様々な健康状態を推定し健康行動につなげるフレイル推定 AI 等の技術を開発した。また、スマートフォンログから日常的なストレス状態を推定するストレス推定 AI、血圧の上昇リスクを推定する血圧上昇習慣推定 AI、風邪や感染症の罹患に影響を及ぼす免疫力の悪化リスクを推定する免疫力推定 AI、身体的・精神的・社会的の 3 つの観点から幸福度を推定する Well-being 推定 AI、加齢による認知機能の変化傾向をスコア化する脳の健康チェック AI、個人に適した介入方法の選択に影響を与える性格因子を推定する性格推定 AI 等、多くの国民の健康の維持・増進に繋がる多様な健康状態推定 AI を開発した。さらに、これらの AI を集約・搭載した HealthTech 基盤を開発し、商用でのサービス提供を開始している。このように、受賞者は、社会全体で予防・健康づくりを強化し、国民一人一人がより長く健康に活躍できる安全・安心な社会の実現に貢献をした。

## 《優秀賞》

大久 哲氏

日本放送協会 放送技術研究所 新機能デバイス研究部 業務職

### [業績]

センシングや発電、通信、データ表示等を行う IoT デバイスは、地球温暖化の原因となる CO2 排出量削減のために製造及び使用時の両面から消費エネルギー削減が要求されるとともに、様々な場所での使用や用途から薄型・小型フレキシブル・伸縮可能等も求められている。受賞者は、IoT デバイスの製造に適用可能な、材料を溶解したインクを塗るだけの簡便な印刷法による有機 EL 素子の開発に成功した。印刷方式は従来よりもデバイスの製造エネルギーを低減できる技術であり、地球温暖化防止に貢献できる。また、人体に貼り付けた IoT デバイスにデータを表示するためには、肌に合わせて伸縮可能な発光デバイスが必要である。受賞者は、低電圧化・高発光効率のために必須となる電子注入層材料を世界で初めて開発し、伸縮可能な有機 EL デバイスの劇的な高性能化を実現した。受賞者による低環境負荷な印刷法で作製するフレキシブル有機 EL 発光デバイスの研究開発や、デバイスの低電圧化、高発光効率、高性能化、解析技術等の基礎から応用に至る研究成果は、有機 EL 発光デバイスによるフレキシブル照明の産業化と低環境負荷な製造法確立によるサステナブルな IoT デバイス実装社会への先導的な役割を果たすものであり、国民の安全・安心を支える技術の研究開発に貢献をした。

---

## 第 8 2 回理事会

■ と き : 令和 7 年 3 月 7 日 (金)

■ と ころ : SCAT 2 階会議室

第 8 2 回理事会において、研究助成事業、技術情報の提供及び知識の普及事業、研究者表彰事業、調査研究及び支援事業の実施などを内容とする、令和 7 年度の事業計画及び収支予算が承認されました。